

新機能



目次

1	このドキュメントについて.....	3
2	SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.2.....	4
2.1	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 へようこそ.....	4
2.2	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム.....	4
2.3	SAP BusinessObjects Web Intelligence.....	8
2.4	SAP BusinessObjects Web Intelligence および BI セマンティックレイヤ SDK.....	10
2.5	SAP BusinessObjects Business Analysis, edition for OLAP.....	11
2.6	インフォメーションデザインツール.....	12
2.7	データアクセス.....	13
2.8	Business Intelligence プラットフォーム RESTful Web サービス.....	13
2.9	SAP Crystal Reports RESTful Web サービス.....	14
2.10	Dashboards および Presentation Design.....	15
2.11	SAP Crystal Reports (Designer).....	15
2.12	SAP Crystal Reports for Enterprise.....	16
2.13	SAP BusinessObjects Mobile サーバ.....	17
3	SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.2 SP2.....	18
3.1	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP2 へようこそ.....	18
3.2	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム.....	18

1 このドキュメントについて


SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.2 の新機能ガイドには、旧リリースから SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite に加えられた機能と改良点の概要が記載されています。新機能を使い始めるために利用できる製品のドキュメンテーションが記載されています。

2 SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.2

2.1 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 へようこそ

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite は、データを有用な情報に変換し、それを最も必要とする人々に配信するための包括的なツールセットです。このスイートには、以下を行うための各種のツールが含まれます。

- データのレポート作成
- ドキュメントのスケジュールと配信
- データの分析と閲覧
- 情報の表示と視覚化
- これらすべてのタスクの管理
- 独自のソリューションのカスタマイズ

サポートされるプラットフォーム、データベース、Web アプリケーションサーバ、Web サーバ、およびこのリリースでサポートされるその他のシステムの一覧については、[製品出荷マトリックス](#)  を参照してください。

旧リリースの機能については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com/bobi>) を参照してください。

2.2 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 インストーラのパフォーマンス改善

Business Intelligence プラットフォーム 4.2 の setup.exe を実行する場合、4.1 サポートパッケージ 6 や 4.1 サポートパッケージ 5 と比較して、[セットアップ言語を選択してください] 画面が表示されるまでの時間が最適化されています。

関連製品への SAP AutoConfigure ツールの追加

SAP BusinessObjects Business Intelligence 4.2 関連製品の一部として SAP AutoConfigure ツールがパッケージ化されています。

関連製品への SAP ホストエージェントツールファイルの追加

SAP BusinessObjects Business Intelligence 4.2 関連製品の一部として SAP ホストエージェントツールがパッケージ化されています。

バンドルされた Tomcat 8 Web アプリケーションサーバ

Tomcat 8.0 が、バンドルされたデフォルトの Web アプリケーションサーバになりました。

アップデートインストールプログラムを使用して、バンドルされた Tomcat 6.0 または 7.0 Web アプリケーションサーバをそれぞれ使用する 4.0 または 4.1 インストールをバージョン 4.2 に更新する場合、使用中のシステムは自動的に Tomcat 8.0 に更新されます。

BI 4.2 インストーラの完了画面の拡張

BI 4.2 のインストールまたはアンインストール完了画面が拡張され、以下のシナリオでメッセージが表示されるようになりました。

- インストールまたはアンインストール時に警告が生成された場合:BI 4.2 は正常にインストールまたはアンインストールされました (警告あり)
- インストールまたはアンインストール時にエラーが生成された場合:Business Intelligence プラットフォーム 4.2 のインストールプロセスまたはアンインストールプロセスでエラーが発生しました

BI 4.2 インストーラの完了画面の拡張は Windows プラットフォーム限定です。

ErrorsAndWarnings.log ファイルへのインストール、アンインストール、修正、または修復に関するログの概要の記録

ErrorsAndWarnings.log ファイルには、SAP BusinessObjects Business Intelligence 4.2 インストーラでのインストール、アンインストール、修正、または修復時に発生したエラーおよび警告のみが含まれます。

インストールまたはアンインストール時に警告やエラーが発生した場合は、ハイパーリンクが表示されます。概要ログを参照するには、このハイパーリンクを選択します。

ErrorsAndWarnings.log ファイルのハイパーリンクは Windows プラットフォーム限定です。

BI プラットフォームのベースバージョンの修正による新しい言語の追加

BI プラットフォームインストールを修正して、新しい言語を追加できるようになりました。Business Intelligence プラットフォームをベースバージョンから BI 4.2 に更新する場合、BI 4.2 に追加された新しい言語はベースバージョンに表示されません。新しい言語を追加する場合は、ベースバージョンを修正してください。

BI 4.2 インストーラの段階的インストール

BI プラットフォーム 4.2 のインストールは 2 段階 (キャッシュとキャッシュ後のインストール) で行うことができます。キャッシュ中はシステムダウンタイムがないため、全体的なシステムダウンタイムが短縮されます。詳細については、[Business Intelligence プラットフォーム 4.2 完全インストールのための段階的インストール](#) および [Business Intelligence プラットフォーム 4.2 アップデートインストールのための段階的インストール](#) を参照してください。

段階的インストールは Windows プラットフォーム限定です。

デフォルトでの FIPS の使用 (BI プラットフォーム 4.2 を新規にインストールする場合)

マシンに新規で SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 をインストールする場合は、連邦情報処理標準がデフォルトで有効化されます。

アップグレードマネジメントツール (UMT) の拡張

- このリリースではフィルタの選択ページが新たに追加されています。フィルタの選択ページは、主に、表示されるドキュメントの数を削減することを目的としています。このページでは、以下に基づいてドキュメントをフィルタすることができます。
 - 作成/変更時間
 - オブジェクトの種類
 - 以前に移行されたコンテンツ
- 概要ページには、UMT でのドキュメントの移行に必要な最小一時領域が表示されます。
- オブジェクト選択ページで [待機中/定期的なインスタンスのインポート] オプションを選択した場合、待機中/定期的なインスタンスのみを移行し、古いインスタンスは無視することができます。
- ようこそページには以下の 2 つの拡張があります。
 - UMT で必要になる一時保存場所を変更することができる。
 - ログレベルを選択することができる。
- ログオンページには、[後で使うために認証情報を保存する] オプションがあります。このオプションを選択すると、CMS ユーザー名と BIAR の場所が保存されます。これ以降、UMT にログオンすると、CMS ユーザー名と BIAR の場所として、保存された情報がデフォルトで入力されるようになります。
- アップグレードオプションページで [セキュリティを含める] チェックボックスを選択した場合、ソースデプロイメントから出力先デプロイメントにセキュリティ権限を移行することができます。

トランスレーションマネジメントツール (TMT) の拡張

このリリースでは、トランスレーションマネージャ SDK が導入されています。これにより、トランスレーションマネジメントツールに同じ内容を再入力しなくても変更を容易に再統合できる独自のアプリケーションを構築することができます。

これを使用して、InfoObject またはローカルフォルダから翻訳を実行するための独自のアプリケーションを作成することができます。また、この SDK を使用すると、翻訳をセントラル管理システム (CMS)、xliff、および excel にエクスポートしたり、そ

の内容をインポートしたりすることができます。さらに、SDK で使用されている API を解説した TMT Javadoc も提供されています。

CMC および BI ラウンチパッドでの通知アラート

管理者は通知機能を使用して、CMC からユーザにアラートメッセージを送信することができます。管理者は、この機能を使用して、選択したユーザに対して重要なメッセージと他の関連情報を通知することができます（たとえば、システムダウンタイム）。アラートメッセージは、ユーザがログオンすると、通知ポップアップとして BI ラウンチパッド画面に表示されます。詳細については、[CMC での通知アラート](#) および [BI ラウンチパッドでの通知アラート](#) を参照してください。

BI Commentary

BI Commentary は、CMC に導入されているアプリケーションです。ドキュメントユーザは、指定されたドキュメントで使用するデータ/統計に関するコメントを作成することによって、相互にコラボレーションすることができます。BI Commentary で、ユーザはレポート内のデータ/統計に関するコメントを投稿できます。デフォルトで、BI Commentary のテーブルは監査データベースに作成されて保持されます。ただし、SAP は BI Commentary アプリケーションのコメントを保存する新しいデータベースを設定することを推奨します。

BI Commentary は、現在、Web Intelligence アプリケーションに利用することができます。Web Intelligence レポートを使用するユーザは、コラボレーションに BI Commentary を使用することができます。詳細については、[Business Intelligence 4.2 の「BI Commentary」](#) を参照してください。

CMC アプリケーションとしてのごみ箱

ごみ箱は、CMC の新しいアプリケーションです。ユーザが BOE システムからアイテムを削除すると、そのアイテムはごみ箱に移動し、ごみ箱が空になるまで一時的に保存されます。これにより、ユーザは誤って削除したレポート/フォルダを取り戻して元の場所に復元することができます。

ごみ箱アプリケーションで、管理者は以下の処理を行うことができます。

- 削除されたアイテム（レポートやフォルダなど）の復元を開始する。
- アイテムをごみ箱から完全に削除する。
- ごみ箱の自動クリーンアップを実行する。

ごみ箱に一時的に保存できるのは、共有フォルダ内のアイテムだけです。詳細については、[CMC アプリケーションとしてのごみ箱](#) を参照してください。

LCMBIAR ファイルからのオブジェクトの選択的取得

LCMBIAR ファイルからオブジェクトを選択的に取得できるようになりました。そのためには、ユーザに [LCMBIAR の編集] 権限が必要です。LCMBIAR ファイルからオブジェクトを選択的に取得すると、選択したオブジェクトが含まれる新しいジョブが作成されます。コマンドラインツールを使用して、同じ操作を実行することができます。

BI 管理者のダッシュボード

BI 管理者のダッシュボードは、CMC に追加された新しいアプリケーションです。このダッシュボードで、管理者は BI 環境に関する基本データを収集することができます。つまり、BI 環境のデータからビジネス上のインテリジェンス情報が派生します。BI 管理者のダッシュボードでは、サービス、スケジュールされたジョブ、コンテンツの使用、およびアプリケーションに関する情報を取得できます。

詳細については、[BI 管理者のダッシュボード](#) を参照してください。

Web サービスコンシューマ SDK の拡張 (監査用)

Web サービスコンシューマ SDK を使用する AnalysisOffice や Xcelsius などの Web サービスクライアントを監査できるようになりました。クライアントの監査を有効化するには、Web サービスコンシューマ SDK (.NET および Java) を使用している特定のクライアント ID を指定します。

2.3 SAP BusinessObjects Web Intelligence

共有オブジェクトのオプション作成

コピー/貼り付け操作が調整され、レポート要素の再利用方法を選択できるようになりました。JAVA クライアントにコピーしたレポート要素は複数の形式で保存され、後で各種のアプリケーションに貼り付けることができます。共有オブジェクトを使用することによって、他の Web Intelligence ドキュメントでレポート要素を再利用できますが、クリップボードへのコピーには時間がかかります。Web Intelligence のパフォーマンスを向上させるために、共有オブジェクトの作成はオプションになりました。

右から左への配置のサポート

Web Intelligence ドキュメントの方向をデフォルトで定義できるように、ドキュメント設定を上書きする基本設定パラメータを設定できるようになりました。たとえば、左から右への配置で作成されたドキュメントは、このパラメータの設定に応じて、右から左への配置でも表示できます。

BI Commentary

Web Intelligence レポートにコメントを追加して管理できるようになりました。この統合されたコメントソリューションでは、全体的なユーザエクスペリエンスを向上させるコンテキストパネルを導入することによって、コメントの作成が簡単になりました。コメント作成の基本設定は、Web Intelligence ドキュメントのプロパティで定義することができます。

データプロバイダ最新表示の並列処理

データプロバイダ最新表示の並列処理機能によって、複数のデータプロバイダが含まれる Web Intelligence レポートの最新表示パフォーマンスが向上し、Web Intelligence レポートで、複数のデータプロバイダに基づいて複数のデータ最新表示アクションをパフォーマンスが低下することなく同時に実行できます。

地理マップチャート

地理マップは新しいタイプのビジュアライゼーションであり、データを地理的に表現し、Web Intelligence のグラフィックエンジンを使用してレンダリングします。Web Intelligence に埋め込まれた地理データベースをもとに、データセットの指定した部分から世界各国の正確な場所を特定することができます。Web Intelligence に統合されたグラフィックエンジンを使用して、選択したディメンションオブジェクトの値にリンクできる特定の場所を検索し、データを地図上で視覚化できます。

カスタム要素

カスタム要素は、ビジュアライゼーションの新しいタイプで、そのレンダリングが Web Intelligence によって外部レンダリングサービスに依頼されます。Web Intelligence ドキュメントでは、カスタム要素は他のレポート要素（チャート、テーブルなど）と同様に統合および表示されます。

HANA ビューへのダイレクトアクセス

HANA ダイレクトアクセスデータプロバイダを介して HANA ビューにアクセスし、オーサリングユニバースを使用せずに Web Intelligence ドキュメントを作成します。HANA ダイレクトアクセスは一時ユニバースに依存し、レポートプロセス全体を高速化します。HANA ビューでのクエリの作成と HANA のスピードとパワーの活用

SAP HANA オンラインモード

SAP HANA オンラインモードでは、HANA の機能を活用してライブデータによる Web Intelligence ドキュメントを作成します。SAP HANA オンラインモードでは、値集計やメンバーのフィルタリングなど、Web Intelligence でのすべての計算が

HANA に依頼されます。これにより、Web Intelligence と HANA との間のインタラクションが高速化され、データの最新表示のパフォーマンスが向上します。

この機能は、HANA 上の膨大なデータを分析および検索する必要があるビジネスアナリストを対象としています。ビジネスアナリストは、リアルタイムデータを使用して、Web Intelligence と快適にやり取りすることができます。

レポートデザイナーにとっても、ドキュメント作成をさらに容易にする SAP HANA オンラインモードのユーザエクスペリエンスからの恩恵があります。レポートデザイナーは、クエリパネルとユニバースでの作業を省略することができます。

共有要素

共有要素は、CMS リポジトリに格納され、他のユーザや他のドキュメントで複数回再利用できるレポートのパーツです。共有要素によって、一度作成したコンテンツを複数回再利用することが可能になり、トータルコストオブオーナーシップが削減されます。

新しい SQL 関数:UPPER_LIKE および CONTAINS

Web Intelligence でデフォルトで使用される LIKE 演算子の代わりにこれらの関数を使用すると、大文字小文字を区別せずに SQL 検索を実行することができます。UPPER_LIKE はほとんどのデータベースでサポートされていますが、CONTAINS は HANA ベースの関数であり、HANA データベースでのみサポートされています。関数の詳細および Web Intelligence でこれらを有効にする方法については、インフォメーションデザインツールユーザガイドを参照してください。

2.4 SAP BusinessObjects Web Intelligence および BI セマンティックレイヤ SDK

SAP BusinessObjects BI セマンティックレイヤ

- 「RESTful Web サービス SDK」
 - 識別子を使用してパラメータの詳細を取得することができます。
- 「Java SDK」
 - リンクされたデータファンデーションおよびリンクされたビジネスレイヤの詳細を取得することができます。
 - 数値および日時ビジネスオブジェクト用の定義済み表示書式およびカスタム表示書式を作成、編集することができます。
 - ビジネスオブジェクトのソース情報 (技術情報、マッピング、およびリネージ) を取得および編集することができます。
 - 識別子を使用してデータファンデーション結合を識別することができます。
 - BI セマンティックレイヤ Java SDK のバージョン番号を取得することができます。

SAP BusinessObjects Web Intelligence

- 「カスタマイズ」
CMC でのカスタマイズによって、SAP BusinessObjects Web Intelligence ユーザインタフェースのコメントおよび共有要素機能を非表示にすることができます。
- 「RESTful Web サービス SDK で可能になった機能」
 - 識別子によるパラメータの詳細の取得
 - データプロバイダとして使用する Microsoft Excel ファイルの、別ファイルによる置換
 - CMS リポジトリの Microsoft Excel ファイルの更新
 - メジャーが高精度の値を返すかどうかについての取得および設定
 - 折れ線チャートでの点線および破線のサポート

2.5 SAP BusinessObjects Business Analysis, edition for OLAP

Oracle Essbase データソースでのエイリアステーブルのサポート

エイリアスとは、OLAP ワークスペースのディメンションおよびメジャーに使用できる代替名のことで、

OLAP 分析ワークスペースに情報が表示されるときには、Oracle Essbase データソース内のデフォルトテーブル情報がディメンションおよびメジャーに使用されます。ただし、デフォルトテーブルをエイリアステーブルのその他のエイリアスに変更することができます。今後の使用で、選択したエイリアスがデフォルトとしてワークスペースに表示されるようにする場合は、OLAP 分析ワークスペースを保存します。

エイリアステーブルは、Oracle Essbase データソースでサポートされています。Oracle Essbase データソースのシステム管理者がエイリアスを定義および作成し、データベースアウトラインに保存します。

並べ替えでの階層無視のサポート

OLAP データの分析時に、昇順または降順の並べ替えを階層の親メンバー内に制限しない場合は、[階層を無視] を使用して、データをクロスタブで整列します。

[階層を無視] を実行すると、ディメンションとメジャーが階層内の複数の親をまたいで並べ替えられ、昇順または降順の並べ替えのみでデータ全体を分析することができます。

SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) での通貨換算のサポート

通貨換算によって、分析ワークスペースのキー数値の通貨を換算することができます。分析ワークスペースでは、通貨に定義されているキー数値を別の通貨に換算することができます。換算先の通貨は BW データソースに作成されます。

通貨換算は、SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) データソースでサポートされています。

SAP HANA データソースとの HTTP 接続

SAP HANA appliance software を使用すると、Analysis で HTTP 接続を通して SAP HANA データソースを分析することができます。http(s) プロトコルを利用して SAP HANA プラットフォームに接続し、SAP HANA サーバと通信します。SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームを介して HTTP 接続で SAP HANA プラットフォームに接続することができます。この接続は、SAP BusinessObjects BI プラットフォームの CMC で直接作成することができます。

2.6 インフォメーションデザインツール

このリリースでは、インフォメーションデザインツールに 2 つの重要な改良点があります。

- リンクされたユニバース - ユニバースを 1 つ以上のコアユニバースにリンクし、これらのコアユニバースのデータファウンデーションおよびビジネスレイヤのコンポーネントを再利用します。
- SAP Business Explorer (BEx) オーサリングユニバース - BICS コネクタを使用して BEx クエリ上にユニバースを作成し、保存します。

リンクされたユニバース

リンクされたユニバースとは、Business Intelligence プラットフォームの CMS でコアユニバースにリンクされているユニバース (.UNX) です。

- リンクされたユニバースは、1 つ以上のコアユニバースのデータファウンデーションおよびビジネスレイヤを読み取り専用リソースとして継承するため、これらのデータファウンデーションおよびビジネスレイヤのコンポーネントを再利用することができます。
- コアユニバースは、リンクしているユニバースのデータファウンデーションおよびビジネスレイヤコンポーネントの再利用可能なダイナミックライブラリとして機能します。コアユニバースが変更されると、リンクされたユニバースの共有コンポーネントにも変更が自動的に反映されます。

リンクされたユニバースを使用すると、事前定義され、テストされたユニバースのコンポーネントを、新しいユニバースを迅速に作成するための開始ポイントとして利用することができます。これにより、よく使用するコンポーネントを単一のコアユニバースに一元化し、リンクされた複数のユニバースでそれらのコンポーネントを利用することができます。また、コアユニバースの設定を主に担当するデータベース管理者にコアユニバースの開発タスクを割り当てたり、特定の分野のビジネス要件を主に担当するレポートデザイナーに機能性の高いビジネスレイヤの設計タスクを割り当てたりすることもできます。

BEx オーサリングユニバース

インフォメーションデザインツールでは、BEx クエリ上にユニバースを作成できるようになりました。BEx クエリを選択すると、インフォメーションデザインツールによりビジネスレイヤが自動的に生成されます。その後、オブジェクト名を変更したり、オブジェクトを意味のあるフォルダに再グループ化したり、不要なオブジェクトを削除したりすることができます。

i 注記

BEx オーサリングユニバースは、単一ソースユニバースとしてのみ機能します。

i 注記

基礎となる BEx クエリが変更された場合、BEx オーサリングユニバースを最新表示する必要があります。

2.7 データアクセス

機能サポート (新規):

- X509 一方向証明書ベース認証
- Unix ODBC2.3.0 サポート
- 各データベースサポートの更新されたネットワークレイヤ

データソースサポート (新規):

- HANA SPS10
- Hadoop Hive 0.14
- Cloudera Impala - CDH 5.2 (0.13 および 0.14)
- Amazon EMR Hive 0.13
- Apache Spark (JDBC および ODBC)
- Greenplum 4.3
- IBM IDS 12.1 (ECS フランス)
- IBM Netezza 7.2 (参照により 7.1 をサポート)
- HANA PowerPC

データベースサポートの詳細については、製品出荷マトリックス (PAM) を参照してください。

2.8 Business Intelligence プラットフォーム RESTful Web サービス

このリリースでは、以下の新しい API がサポートされます。

- パブリケーション: パブリケーションを一覧表示、作成、変更、および削除します。

パブリケーションの詳細については、以下のデモビデオをご覧ください。

表 1:パブリケーションデモビデオ

パブリケーション	リンク
エンタープライズユーザへのパブリケーションの追加	https://youtu.be/OZ-4rQNCHXM 
レポートドキュメントの追加	https://youtu.be/Ru_DedNk2sM 
BI 受信ボックス出力先の設定	https://youtu.be/yQ4zyYQ1v2Y 
出力形式の設定	https://youtu.be/jmFoDp9kTiY 
新しいパブリケーションの作成	https://youtu.be/rL2ZLIVt-7Q 
パブリケーションの削除	https://youtu.be/WLFainU6GdA 
ログオントークンの取得	https://youtu.be/d0FjJ4Jqjfs 
ページごとに一覧表示	https://youtu.be/PL1XR_j92sc 
パブリケーションの一覧表示	https://youtu.be/iv85eMHUNjE 
パブリケーションの変更	https://youtu.be/f69rYnar55s 
パブリケーション一覧表の出力先	https://youtu.be/oEdR9R288mc 

- ユーザ管理: ユーザを作成、変更、および削除します。
- ユーザグループ管理: ユーザを作成、変更、および削除します。
- ファイルのダウンロードおよびアップロード: ファイルをダウンロードおよびアップロードします。
- スケジュール: スケジュールされたインスタンスを取得します。
- CMS クエリ: SQL クエリに基づいて InfoStore オブジェクトを取得します。
- BI 管理者のダッシュボード: サーバ、ジョブ、コンテンツの使用、およびアプリケーションの使用の統計を提供します。

2.9 SAP Crystal Reports RESTful Web サービス

このリリースでは、レポートメタデータを取得する新しい REST API がサポートされます。

この API を使用して、以下のレポートまたはサブレポートの `metadata/structure` を Crystal レポートから取得することができます。

- ドキュメントで使用されるデータベース接続、テーブル、エイリアス、結合、フィールドと、そのすべての関連プロパティ。クロスタブのフィールドも一覧表示されます。
- レポートのパラメータ
- レポートの式フィールド
- レポートのパラメータフィールド

- レポートに含まれるフィルタおよびすべての式、計算

2.10 Dashboards および Presentation Design

64 ビット Microsoft Excel のインストールサポート

これまで、Dashboards および Presentation Design は、32 ビット Microsoft Excel を搭載したシステムにしかインストールできませんでした。BI 4.2 では、64 ビット Microsoft Excel を搭載したシステムにも Dashboards および Presentation Design をインストールすることができます。

フィルタコンポーネントの表示の更新

フィルタコンポーネントは水平方向でのみ表示されていました。BI 4.2 では、フィルタコンポーネントを垂直と水平の両方向に表示することができます。

セレクトとチャートの細かな改良点

セレクトとチャートに以下に示す細かな改良点があります。

- スプレッドシートテーブルとスコアカードの新しいバインディングボタン
- チャートの新しいバインディングボタン

これらのオプションを使用すると、デフォルトの選択アイテムをデータバインディングによって指定することができます。

2.11 SAP Crystal Reports (Designer)

セル内テキストの縦配置のサポート

[書式エディタ] ダイアログボックスおよび書式設定ツールバーにより、[上]、[中央]、および [下] の縦配置アイコンが提供されます。

新しい機能のサポート

機能 (GetLowerBound(x); GetUpperBound(x)) およびさまざまな機能 (GetValueDescriptions(x)) に基づく新しい範囲が導入されました。詳細については、*Crystal Reports* オンラインヘルプを参照してください。

2.12 SAP Crystal Reports for Enterprise

セル内テキストの縦配置のサポート

[書式エディタ] ダイアログボックスおよび書式設定ツールバーにより、[上]、[中央]、および [下] の縦配置アイコンが提供されます。詳細については、[縦配置](#) を参照してください。

バーコードおよび QR コードのサポート

レポートに追加されたすべての数値またはテキストフィールドをバーコードに変換することができます。日付または通貨フィールドも、1D および 2D バーコード形式を含む特定のバーコード形式に変換することができます。バーコードは、関数として使用することもできます。詳細については、*SAP Crystal Reports for Enterprise* ユーザガイドを参照してください。詳細については、[バーコード](#) および [QR コード](#) を参照してください。

ウォーターフォールチャートのサポート

Crystal レポートでウォーターフォールチャートを作成できるようになりました。ウォーターフォールチャートは、増減するエンティティの定量的な値の遷移を理解するために役立つデータビジュアライゼーションの形式です。詳細については、*SAP Crystal Reports for Enterprise* ユーザガイドを参照してください。詳細については、[ウォーターフォールチャート](#) を参照してください。

Crystal Reports でのレポート検証の無効化

多数のサブレポート (BW 接続に基づく) を含む Crystal Reports ドキュメント/レポートをデータなしで保存し、DHTML ビューアで開くと、レポート/サブレポートごとに BW サーバで 1 つのバックエンド接続が開きます。複数のユーザが同じレポートを開くと、多くの接続が開き、システムがクラッシュする原因となります。

Crystal Reports for Enterprise のこの問題を解決するために、新しいレポートオプション ([ビューアでのレポート検証の無効化](#)) が導入されました。詳細については、*SAP Crystal Reports for Enterprise* ユーザガイドを参照してください。

2.13 SAP BusinessObjects Mobile サーバ

iOS デバイスへの通知のプッシュ

SAP BusinessObjects Mobile サーバでは、SAP BusinessObjects Mobile アプリケーションユーザの iOS デバイスに通知がプッシュされます。通知は以下のシナリオで発生します。

- ユーザのデバイスにダウンロードされた BI ドキュメントの更新または新しいインスタンスがサーバ上で利用可能になった場合。
- 新しいドキュメントがユーザの BI 受信ボックスに届いた場合。
- BI プラットフォーム/BOE 管理者がメッセージを配信した場合。

通知は、Mobile サーバから APNS (Apple Push Notification Service) を通してデバイスに自動的にプッシュされます。ユーザは、アプリケーションのホーム画面を明示的に最新表示しなくても、アクティブな接続から更新を取得することができます。ただし、アプリケーションで "通知設定" を有効にする必要があります。詳細については、Mobile サーバ 4.2 の *Mobile* サーバのデプロイメントおよび設定ガイドを参照してください。

詳細については、[SAP BusinessObjects Mobile 6.3 Business Intelligence 4.2 の「プッシュ通知」](#) を参照してください。

i 注記


この機能は Mobile サーバにのみ実装されています。この機能は、SAP BusinessObjects Mobile 6.3 (モバイルクライアント) のリリース後に使用可能になります。

3 SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.2 SP2

3.1 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP2 へようこそ

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite は、データを有用な情報に変換し、それを最も必要とする人々に配信するための包括的なツールセットです。このスイートには、以下を行うための各種のツールが含まれます。



- データのレポート作成
- ドキュメントのスケジュールと配信
- データの分析と閲覧
- 情報の表示と視覚化
- これらすべてのタスクの管理
- 独自のソリューションのカスタマイズ


サポートされるプラットフォーム、データベース、Web アプリケーションサーバ、Web サーバ、およびこのリリースでサポートされるその他のシステムの一覧については、[製品出荷マトリックス](#)  を参照してください。

旧リリースの機能については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com/bobi>) を参照してください。

3.2 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP2 アップデートのインストールには新しいライセンスキー要件があります。

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 アップデートには新しいライセンスキーが必要です。SAP Service Marketplace (<https://support.sap.com/keys-systems-installations/keys.html> ) から新しいライセンスキーを申請する必要があります。新しいライセンスキーの申請方法の詳細については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-70095>  を参照してください。

SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.2 のアップデートインストールが完了したら、セントラル管理コンソール (CMC) にログオンし、古いライセンスキーを削除して、新しいライセンスキーを追加してください。または、スクリプトを実行して、ライセンスキーを削除することができます。スクリプトによるライセンスキー削除の詳細については、SAP ノート [227613](#)  を参照してください。

新しいライセンスキーを追加するまで、特定のサービスは無効な状態になり、すべてのサービスは無効化されます。

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP2 のアップデートインストールでは、アップデートインストール手順に新しいウィンドウが導入されました。

アップデートインストール手順は、[新しいライセンス要件] ウィンドウにあります。ここに、新しいライセンスキー要件についての情報が表示されます。情報を確認後、チェックボックスを選択して、アップデートインストールを続行する必要があります。

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP2 のアップデートインストールでは、[インストール後の手順] ウィンドウが拡張されました。

[インストール後の手順] ウィンドウが拡張され、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2 SP2 のアップデートインストールの新しいライセンスキー要件についての情報が追加されました。

重要免責事項および法的情報

コードサンプル

この文書に含まれるソフトウェアコード及び / 又はコードライン / 文字列 (「コード」) はすべてサンプルとしてのみ提供されるものであり、本稼働システム環境で使用することが目的ではありません。「コード」は、特定のコードの構文及び表現規則を分かりやすく説明及び視覚化することのみを目的としています。SAP は、この文書に記載される「コード」の正確性及び完全性の保証を行いません。更に、SAP は、「コード」の使用により発生したエラー又は損害が SAP の故意又は重大な過失が原因で発生させたものでない限り、そのエラー又は損害に対して一切責任を負いません。

アクセシビリティ

この SAP 文書に含まれる情報は、公開日現在のアクセシビリティ基準に関する SAP の最新の見解を表明するものであり、ソフトウェア製品のアクセシビリティ機能の確実な提供方法に関する拘束力のあるガイドラインとして意図されるものではありません。SAP は、この文書に関する一切の責任を明確に放棄するものです。ただし、この免責事項は、SAP の意図的な違法行為または重大な過失による場合は、適用されません。さらに、この文書により SAP の直接的または間接的な契約上の義務が発生することは一切ありません。

ジェンダーニュートラルな表現

SAP 文書では、可能な限りジェンダーニュートラルな表現を使用しています。文脈により、文書の読者は「あなた」と直接的な呼ばれ方をされたり、ジェンダーニュートラルな名詞 (例: 「販売員」又は「勤務日数」) で表現されます。ただし、男女両方を指すとき、三人称単数形の使用が避けられない又はジェンダーニュートラルな名詞が存在しない場合、SAP はその名詞又は代名詞の男性形を使用する権利を有します。これは、文書を分かりやすくするためです。

インターネットハイパーリンク

SAP 文書にはインターネットへのハイパーリンクが含まれる場合があります。これらのハイパーリンクは、関連情報を見いだすヒントを提供することが目的です。SAP は、この関連情報の可用性や正確性又はこの情報が特定の目的に役立つことの保証を行いません。SAP は、関連情報の使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。すべてのリンクは、透明性を目的に分類されています (<http://help.sap.com/disclaimer> を参照)。



[go.sap.com/registration/
contact.html](http://go.sap.com/registration/contact.html)

© 2016 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE (又は SAP の関連会社) の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する情報および表示の詳細については、<http://www.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx> をご覧ください。